

第6戦 SUGO 速報レポート

GT300 車両との接触でクラッシュを喫す



9月17日、SUPER GT 第6戦の決勝レースが、宮城・スポーツランド SUGO で開催され、No.100 STANLEY NSX-GT は、予選10番手から300kmレースに臨んだ。

気温28度、路面温度33度ながら、厳しい蒸し暑さの中で幕が上がった決戦。牧野任祐選手がスタートドライバーを担当し、まずはポジションキープで周回を重ねていく。前後を走る他車とは搭載するサクセスウェイトの違いをはじめ選択したタイヤの種類など、それぞれコンディションが異なるため、まずは状況を見極めつつ、ライバル攻略を意識しながら周回を重ねていく。

10周を過ぎると、前方車両との差が縮んで激しい攻防戦を展開。だが、コース上ではGT300が絡むトラフィックで思うようにポジションアップのチャンスは生まれず。まさにガマンの走行が続く中、26周目には前方車両を逆転して8番手へ。さらに、28周終わりには、GT500クラスで最も早いピットインを実施。タイヤ交換、給油に加えて山本尚貴選手へと交代し、39.2秒でピットを離れた。

37周目には8番手、ピットインを済ませた車両として暫定6番手となったNo.100 STANLEY NSX-GT。気温はスタート時とほぼ同じながら、路面温度は3度近く低下。選択したタイヤの特性なども味方に、後半に向けてさらにポジションアップすべく、山本選手は目前の車両を猛追して最終コーナーを立ち上がり、メインストレートへと向かった。

だが、その途中、ピットに戻ろうとストレートを走行していたアウト側の GT300 車両が、イン側にいた No.100 STANLEY NSX-GT に接触。スピードに乗った状態で 300 車両の右フロントが接触したために、No.100 STANLEY NSX-GT はスピンをする形でアウト側のガードレールにリヤ側から激しくヒット。車両の後方部分を大きく失うクラッシュとなり、その場で停止した。

これを受け、レースはおよそ 3 分強、2 周に渡りセーフティカーが導入され、のち赤旗中断に。また、大きなクラッシュでダメージを負った山本選手は、救出されてドクターヘリで病院に搬送された。一旦、仙台市内の病院で検査を受けたが、大事をとって、別の病院で精密検査を受けるため入院をした。

レース中盤から後半に向けて追い上げ態勢に入っていた No.100 STANLEY NSX-GT。まさかのクラッシュで戦列を離れる形となり、悔しいという言葉ばかりが先行する。山本選手の一日も早い回復を祈りつつ、残る 2 戦で全力を尽して戦っていきたい。